大久保健晴研究会

（東洋政治思想史・比較政治思想）

**１．大久保健晴先生より**

　私たちが生きている東アジア世界は、今日まで、どのようにして作り上げられてきたのでしょうか。そして今後、いかなる未来へと進もうとしているのでしょうか。大久保健晴研究会は、このような大きな問題関心のもと、東アジアにおける政治思想について歴史的な視座から比較・検討することを主題とします。

　現在、東アジア情勢は緊迫化した事態に直面し、先行き不透明な展開を見せています。コロナ禍による渡航制限、日韓関係の悪化、北朝鮮問題、尖閣諸島や竹島などの領土を巡る争い、歴史認識や歴史教育の相違、台湾問題、香港問題、南シナ海の領有権問題、日本における集団的自衛権や憲法を巡る論争、アメリカとの関係、靖国問題、沖縄の基地問題など。これらは、私たちの日々の政治や経済、文化や社会生活と極めて密接な関係を持っています。本研究会では、こうした現代的な諸課題を念頭に置きつつ、しかしそれを直接的に取り上げて論じるのではなく、なぜそのような問題が生まれてきたのか、今一度、歴史を遡り、近世・近代東アジア世界の成り立ちと変容を明らかにするところから検討をはじめます。

　もちろん、これらの問題を考える上では、西洋政治思想にも目を向け、西洋世界との文化接触を検討する必要があります。西洋と東アジアとの間の外交、経済、学術、法を巡る交渉史に光を当て、東アジア諸国相互における学問の継受、ナショナリズムの勃興など、その重層的な構造を解明する。そうした作業を通じて、現代における政治思想的な諸問題を、世界史的な視座から読み解く力を養います。

具体的には、ゼミ生の間で共通テーマを定め、輪読やグループ・ワーク、ディベート、レポート報告などを通じて理解を深めていきます。その上で、個々の問題意識をより明確にさせながら、卒業論文の執筆に取り組みます。様々な「政治思想的な問い」を巡って、歴史的観点から多くの史料を正確に読み解き、立場の異なる様々な人々の見解に誠実に耳を傾け、深く悩みながら、多面的な視座から考察を導いていく学問的姿勢が、このゼミでは求められます。

　研究報告や討論を通じて、自らの生きている社会の成り立ちやあり方について、自分の頭で考え、自らの言葉で周りの人々を説得できる力を身につけることが、本研究会の最終目的です。こうした能力こそ、今後さまざまな場で活躍する皆さんが最も求められるスキルでもあるのです。

**２．研究対象**

　近世から近現代へと至る、西洋世界と東アジア諸国との文化接触、ならびに東アジア世界における政治思想や国際秩序の成り立ちと変容について、研究します。

**３．ゼミ生の構成**

　４年生26名　　３年生23名

**４．他学部生の受け入れ　可**

**５．留学から帰ってくる学部生の扱い**

　歓迎します。帰国の時期などによって対応が異なるため、必ず事前に大久保先生、または入ゼミ担当までご連絡ください。

**６．ゼミ生からのコメント**

　東洋政治思想史と聞くと難しそうなイメージを持たれるかもしれませんが、大久保先生のわかりやすい解説で、自ら考えをより深めることができます。まったく心配ありません！　研究テーマも自由度が高く、東アジア諸国だけでなく、ヨーロッパやアメリカの政治思想や文化など、「比較」の観点から幅広く学ぶことができます。ゼミ生同士もとても仲が良く、アットホームな雰囲気です。充実したゼミ生活を送りたい方は、是非、大久保ゼミへ！

**７．ゼミの進め方**

　2021年度、３年生のゼミは木曜３限に開講されています。例年、春学期は、テキストの輪読やグループ・ディスカッションを通じて、基礎的な知識を身につけます。秋学期はテキストの輪読とともに、三田論の作成に取りかかります。４年生は木曜４限に、毎週交代で卒論の中間報告を行っています。

**８．使用文献**

　益尾知佐子『中国の行動原理―国内潮流が決める国際関係』（中央公論新社）

平川新『戦国日本と大航海時代―秀吉・家康・政宗の外交戦略』（中央公論新社）

原武史『平成の終焉―退位と天皇・皇后』（岩波書店）

武藤秀太郎『「抗日」中国の起源―五四運動と日本』（筑摩書房）　　　　　　　など

**９．ホームページアドレス**

　tokubosemi.wixsite.com/okuboseminar

**１０．連絡先**

○2022年度入ゼミ担当：　飯塚理咲、渡辺泰介

○メールアドレス：　okuboseminar2022@gmail.com

○Twitterアカウント：　@TOkubosemi